

第9学年 道徳科 学習構想案

日時 令和7年7月17日(木) 第4校時

場所 9年1組教室

指導者 教諭 中野 香織

1 学習構想

主題名	よりよく生きる喜び D(22) 「正念場だモン」 (つなぐ)	
目指す生徒の姿		
「当たり前が未だ当たり前でない中、私達はどうすればいいのか」ということや、地域の方の思いを考える活動を通じて、人間として生きることの喜びを見出そうとする生徒		
主題に迫る学習課題	本主題で働かせる見方・考え方	
「当たり前が未だ当たり前でない中」私達はどうすればいいのか	見出している身近な人の姿を通して、被災しながらもよりよく生きる喜びを見出そうとすることについて考えること。	

2 本時の学習

(1) ねらい 困難な状況や場面に会った時どのように考え行動すべきか考えることを通して、よりよく生きる喜びを見出そうとする態度を育てる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	5分	1 当たり前の生活について考える。 ◇ご飯を食べる ◇風呂に入る ◇学校に行く	○繰り返される毎日の行動ができることを期待していることに気付かせ、学習の見通しをもたせる。
展開	30分	2 教材を読んで考える。 ①「当たり前でなくなる」とはどういうことか考える。 ◇やりたいことができなくなる。 【学習課題】「当たり前」が当たり前でない中、私たちがすべきことは ②「当たり前」の生活が「当たり前でなくなった」時、自分はどんな気持ちになるのか？また、どうやって乗り越えるのか考える。 ◇投げやりになってしまう。 ◇自分のできることをする。 ③「おがわ瓦版」のことについて考える。 ◇表は主に災害 裏は行事や日々のこと。 ◇災害のことばかりでは辛すぎる。 ◇球磨村が復興していることを知らせたい。 ◇楽しい話題を届けたい。	○9年前の熊本地震のこと ○「当たり前でなくなった」 ○心情ハートに色を塗り、一人一人の思いに気付かせる。 ○「おがわ瓦版」の表と裏の記事の違いに注目して筆者の思いを考えるようにする。 ○被災しながらも、瓦版を待っている人や被災によって傷ついた人に、自分ができることで笑顔を届けたいと活動している宮原さんの思いに気付かせたい。姿を通して、自分は何ができるのだろうかと考えを深めさせたい。 9年前始め、被災後9か月避難生活を送っていても、書き続けていこうと決意した宮原さんの思いを考えさせる。
		3 自分を見つめ、これからの生き方につなげて考える。 ①自分の意見を持つ。 (共通実践事項1) ②友達と意見を交流する。 (共通実践事項2) ③全体に広げる。 4 学習を振り返る。	【評価の視点1】 「当たり前が未だ当たり前でない中」私達はどうすればいいのかについて、発言したり、話し合ったりしている。(方法: 発言・ワークシート) 【評価の視点2】 身近な人の姿を通して、よりよく生きる喜びを見出そうとすることについて授業全体を通して考えたことを、自分自身の経験と重ねながら発言したり書いたりしている。(方法: 発言・ワークシート) ○これからの自分の生き方については今後の総合的な学習の時間に考えさせる。
終末	15分		

3 指導に当たっての留意点

【視点1】 「状況を的確に捉え、判断し、主体的に行動する力を身に付ける授業の工夫」

手立て2: 子供が問いをもち、主体的に学ぼうとするための資料提示や課題設定の工夫

○「おがわ瓦版」を提示し、地域の方の思いを考えさせることで、学習課題を深めるようにする。